

事業所名

多機能型児童発達支援センターベース
(放課後等デイサービス)

支援プログラム

作成日

6年

11月

19日

法人（事業所）理念		障がいや環境によって、生きづらさや困難さを抱える原因や理由は人それぞれです。ひとりひとりが理解されあい、認めあい、支えあい、暮らしていける社会を目指します。					
支援方針		お子様の「できる」「できそう」から始める療育支援を行う事業所です。ひとりひとりの違いを理解して、違いに合わせた学びや支援があり、違いがあっても自分らしく生きるためのサポートをしていきます。 TEACCHプログラムに基づいた個別化した療育と社会性の段階に応じた集団療育を行います。ライフステージ（幼児期、学齢期前期、学齢期後期）に応じた必要な課題設定を行います。					
営業時間		9時	0分	18時	0分	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	余暇スキル、職業生活に必要なスキル、居住生活に必要なスキル（家事・金銭管理・健康安全など）を障害特性に合わせた環境の中で援助量を減らしながら練習する 相談する、リクラゼーションの方法を持つ、感覚刺激を回避する等、将来に備えた基本習慣					
	運動・感覚	微細運動：本人の指先の巧緻性に配慮した道具を用いて練習を行う（ベルトを締める、工具の扱いなど） 粗大運動：動作のモデルを見て模倣する（体操など）					
	認知・行動	概念や学習について本人の特性に合わせた設定で興味関心を活用しながら1対1で教える 「禁止」や「待つ」の指示に従う、課題や活動の指示に従う、変更や修正に従える、客観的な情報を参照する、他者の考え方を聞く、参考にする等					
	言語 コミュニケーション	イラストカード、リマインダー等の視覚的なツールを活用して適切な表出を促す 要求、拒否、注意喚起、情報請求、情報提供 言語聴覚士による言語訓練の実施					
	人間関係 社会性	グループ活動の中で社会性の段階に合わせた気づきの設定を行う（接近・並行・共有・協力・順番交代・ルールを守る・対人相互交渉） 対人境界に気づく、周囲の状況を気にとめる、全体指示に注目する 事前予告や約束の確認を行い、友達とのトラブルを回避したり、成功で終わる経験を重ねる					
家族支援		生活全般を通して、課題になっていることに対して情報共有と相談援助を行う。			移行支援		学校とのケース会議の実施。児童の状況や様子を情報共有しながら将来のスムーズな移行につなげる。
地域支援・地域連携		自立支援協議会への参加（研修、事例検討） こども部会の運営 地域療育支援事業への参加			職員の質の向上		年12回の研修とOJT、年2回程度の法人コンサルテーションを実施している。
主な行事等		夏季の水遊び、クリスマス会などの実施					